☆Ⓐパターン　記入例

氏名　福島　太郎	**学年**　5	**生年月日**		**作成者**	××　××

障がい等の状態 学習上・生活上の困難さ	集中力が続かない。思い通りにならないと暴れる。字形が整わない。 漢字が覚えられない（読みはOK）
障がい名・疾患名	ADHD　　（コンサータ服用）
本人の思い （学校生活での希望、進学先、将来について等）	友だちと楽しく学校生活を送りたい。テストでもう少し点数を取りたい。みんなが手伝ってくれるが、自分の力でやりたい。将来の夢は分からないが、高校には行って、勉強したい。
保護者の願い （本人の将来の姿等）	仕事に就いて、自立した大人になってほしい。思い通りにならない時でも、暴れないで対処できるようになってほしい。
本人の良さ・興味関心・遊び・強み等	虫、ヘビが好き。絵がうまい。運動が得意。嫌なことがあっても、すぐに切り替えて友だちと仲よくできる。

（支援目標設定の理由）
書字の困難さや不注意による失敗等の経験から、精神的な不安定につながり、その後の学習等が続けられないことが考えられる。本人は学習をもっと理解したい、高校に行きたいという思いがある。保護者は、心理的に安定して学習、進学、就職へと将来の願いがある。このようなことを踏まえ、学校、家庭、各連携機関等において、実際に以下のような支援が必要であると考えた。
支援目標（◎支援　○指導）
◎書きの困難さへの支援　　◎集中しやすい環境　◎精神的に不安定になった時の支援 ○書字以外の記録できる技術を獲得・低学年程度の読み書き　○イライラした場面での対応

各連携機関の支援内容等

機関名	支援内容	機関名	支援内容
××病院	・薬の効果や服薬のきまりを伝える。 ・本人にとって必要な合理的配慮について相談。	○○クラブ（学童）	・宿題の見守り。 ・精神的に不安定になった時にスペースを設ける。

支援内容・方法（個別に必要とする合理的配慮等）	**支援の評価**
【教育内容・方法】 ・本人への板書内容の量を調整し、授業後、デジタルカメラで撮影、ファイル化して学習を保障する。 ・単元テスト等に関しては、別室で、口頭による代替え筆記によるテストを行う。 ・障がいから生じる困難さを改善、克服する指導として通級指導教室を利用する。詳しくは個別の指導計画へ（支援目標の指導部分）。	→**継続**：学習の復習ができ、理解力も向上。 →**継続**：落ちついてテストに取り組み、結果について本人も喜んでいる。 →**継続**：詳しくは個別の指導計画へ。今後も、通級指導教室と連携し、指導。
【支援体制】 ・通級指導教室と連携した支援、指導。 ・定期的にSCとの個別懇談を実施。	→**変更**：本人から、SCとの懇談は大丈夫とのこと。次年度は、本人が必要時のみ。
【施設設備（学校、教室等）】 ・精神的に不安定になった時のクールダウンスペースを確保する。	→**終了**：クールダウンスペースが必要なくなってきた。
・注意がそれやすいことから、座席位置、掲示物等に配慮する。	→**継続**：注意がそれなければ学習へ集中している。

上記の内容を確認しました。

○年○月○日　　児童生徒名（　　）
保護者名　（　　）